胸腔鏡下手術における新しい主肺動脈遮断法の開発

（札幌医科大学　胸部心臓血管外科　准教授　渡辺　敦）

胸腔鏡下による肺血管処理を必要とした手術が一般的となる一方で、その肺動脈損傷による術中リスクと危険性は開胸手術と比較し増大している。開胸手術と異なり胸腔鏡下での肺動脈遮断手技の困難さと、その際の術野のworking spaceの少なさは術者の大きな負担となっている。我々は、この問題点を減少すべく新しい主肺動脈遮断法を開発し、安全かつ正確に胸腔鏡下手術を遂行可能にしている。方法は、肺動脈遮断に遮断鉗子やターニケットを使用せず、1号絹糸を2本使用し肺動脈の遮断と解除を限られたworking spaceで施行可能なものとした（図1）。その遮断方法により40mmの切開からでも肺動脈中枢、末梢の遮断、開放が安全に施行可能で、胸腔鏡下手術の適応を広げることに寄与している(図2)。本法をさらに、簡便化するため、accsess diviceを開発予定である。

図1　糸による肺動脈遮断法

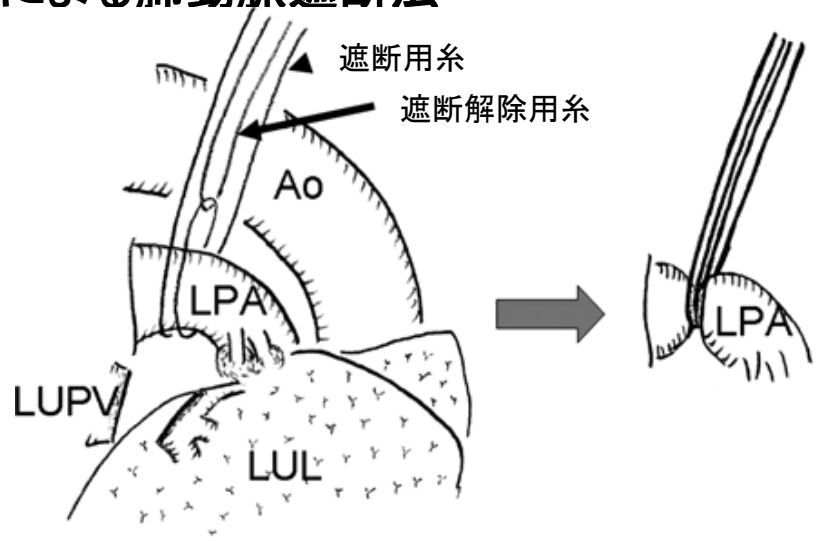
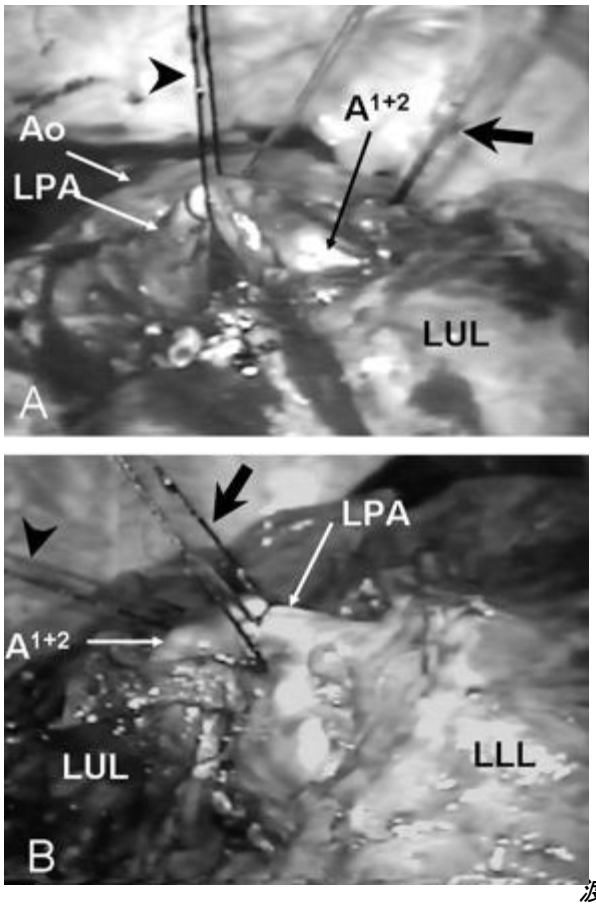


図2　術中写真



Ao	大動脈
LPA	左肺動脈
LUL	左上葉
LLL	左下葉

渡辺　敦 (Email: atsushiw@sapmed.ac.jp).